

これでバッチリ釣れる！

へらエサ マニュアル 徹底解説

Vol.4

秋の浅ダナ セット釣り



つれるエサづくり一筋
マルキュー

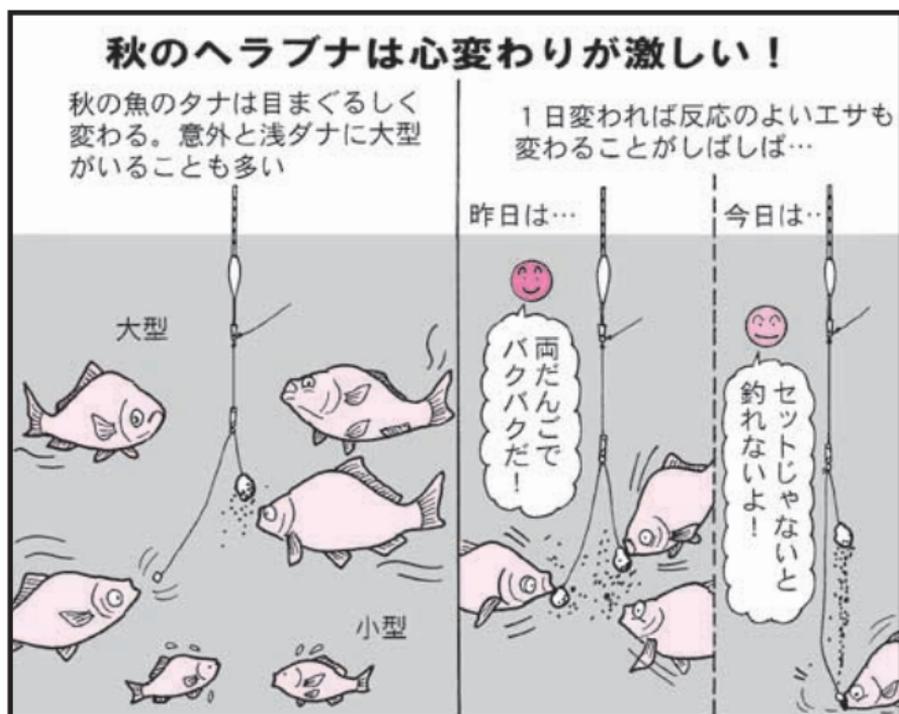
本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
TEL : (048) 728-0909(代) FAX : (048) 728-3909
<http://www.marukyu.com/>

秋の浅ダナセット釣りとは...

「秋はタナを釣れ」といわれるように、この季節はヘラブナの泳層の変化が激しく、思いもよらぬ浅いタナで釣れる場合が意外と多い。

近年の管理釣り場に於いても、同じようなことが言える。秋は、日増しに水温が下がり始め、両だんごでの爆釣があったかと思うと、次の日は両だんごではアタリも出ず、感嘆やウドンのセット釣りでポツポツ拾い釣り。また、水温が高くなる午後から両だんごで夏の釣り。このように1日の状況が激しく変わるのが秋の釣りの特徴といえる。

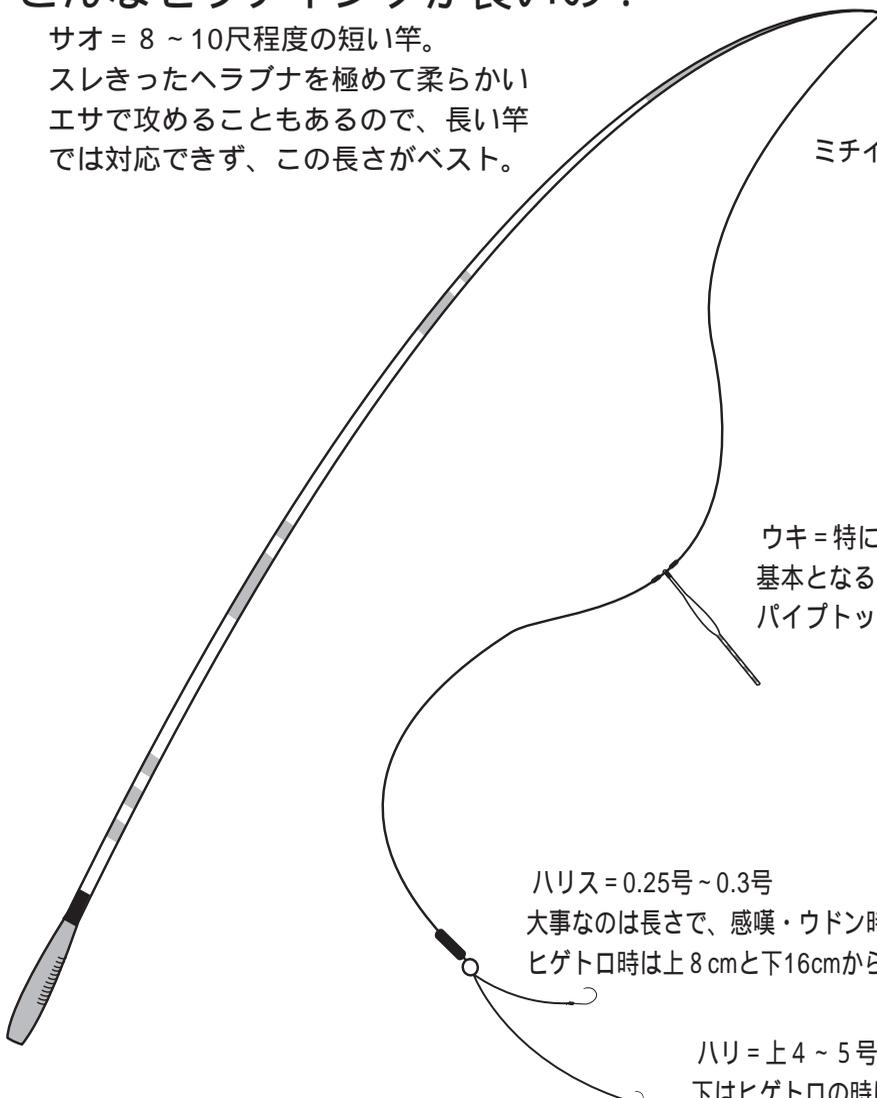
したがって秋の浅ダナ釣りは、厳寒期のセット釣りとは違い、両だんごの延長線上にあると考えて釣りを組み立てるのが基本である。



Step.1

どんなセッティングが良いの？

サオ = 8 ~ 10尺程度の短い竿。
スレきったヘラブナを極めて柔らかい
エサで攻めることもあるので、長い竿
では対応できず、この長さがベスト。



ミチイト = 0.5 ~ 0.6号

ハリス = 0.25号 ~ 0.3号

大事なのは長さで、感嘆・ウドン時は上5cmと下15cm、
ヒゲト口時は上8cmと下16cmからスタートしよう。

ハリ = 上4 ~ 5号

下はヒゲト口の時は3 ~ 4号

感嘆やウドンの時は1 ~ 2号

セッティングのツボ

この時期のヘラブナは、ある程度の活性があるので、短めのハリスからスタートしよう。サワリ、アタリがなければ、少しずつハリスを伸ばしていくのが、基本である。

セッティング全体のポイントは、短竿、軽い仕掛け、短バリスだ。

ウキ = 特に重要なポイントになるが、ボディは5mm径で5cmが基本となる。状況に合わせて、4cm、6cmを使い分けるといい。パイブトップとムクトップの2タイプを用意すると完璧だ。

Step.2 釣り方のツボは？

基本的には、バラケをあくまでバラケ（魚を寄せるためのエサ）と考えず、食ってくるバラケ、食しやすいバラケ的エサ合わせがツボといえる。カラツンはハリスが長いと考えよう。ただし、感嘆やウドンでは、バラケをタナで抜き、クワセだけで攻める釣り方もある。これは、クワセだけで待つことでヒット率を高めることができ、ハリスを詰めてもカラツンが続く場合に有効だ。

Step.3 理想的なウキの動きは？

ウキの動きは深ナジミが基本。加えて、ウキをあまり動かさないようなバラケ調整がミソ。下バリのクワセが軽いのであおられやすく、ウキが動きやすいが、両だんごと違い動き過ぎは良くない。

僅かなサワリがありながらバラケがナジミ（2～3目盛り）、それから底釣りのようなモヤモヤしたサワリ程度が良い。サワリの後すぐにバラケが切れるようではカラツンやスレになり易い。

バラケのタッチをヤワネバに持っていき、大きさをアタリ調整をする感覚を身に付けよう。

どっちに食ってきてもいいぐらいで釣ろう！

この時期は、だんご（駄エサ）にも反応する。両だんごの延長にあるセット釣り感覚で釣ろう



Step.4

どんなエサを使うの？

寄せるだけでバラケを食ってこないからといって、決して麩材が必要ないということではない。むしろある程度エサを入れ、寄りを常に保つ心がけが大切である。したがってやや大きめなバラケ、やや柔らかめのバラケ、やや重めなバラケを意識しながらウキの動きを見ながらボソ具合、ネバ具合を調整すると良い。

また、アタリだしてからのカラツンもこの時期多く見られることで、バラケをどんなにいじっても解消できない時がある。この時は、クワセが合っていないと考えられる。感嘆やウドンで面白いように釣れたが、午後からはカラツンの嵐ということをよく聞くが、これはヘラブナが反応するクワセがヒゲトロに変化している、あるいは両だんごで釣れる地合になっていると判断できる。だから、エサ合わせの組み立て方は、

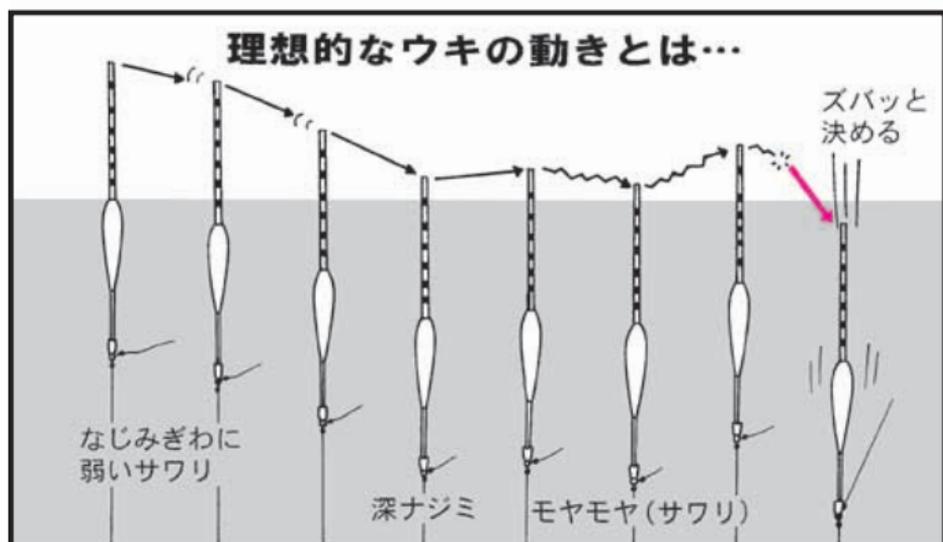
バラケのタッチを変え、カラツンが無くなるタッチがあるかどうかを探る。

クワセをヒゲトロに変える。

ヒゲトロでいい状態になるバラケのタッチを探る。

どうしてもカラツンなら、両だんごにしてみる。

両だんごでカラツンがなくなるタッチを探る。



こんなエサを使おう！

バラケ

ダンゴの底釣り夏



集魚力と高比重が特徴のエサ。比重とエサ持ち、まとまりを重視。

新 B



集魚力に優れ、経時変化の少ないエサ。バラケ性と駄の荒さ、ポソ感を利用する。

底バラ



タナでバラけるのでウワズリにくいエサ。芯ヌケ、比重を重要視。

特 S



特選スイミー配合で集魚と重さが特徴。基本のネバと比重に使う。

G T S



バランス良く配合されたベースエサ。バラケ性と芯残りを重要視。

ダッシュ



バラケ性の高さで軽さの維持が特徴。バラケやすくとヌケ(開き)が良いのが決め手。

クワセ

ヒゲトロ



繊維が強くハリ持ちがよい。また軽いので吸い込みも抜群。

感嘆



軽い仕上がり、自然な落下を生み、渋った状況に効果的。

特選わらび彩



適度なコシとネバリで使いやすく、やや軽めの比重が浅ダナで威力を発揮。

Step.5

実釣シミュレーション

バラケ作り(ヒゲトロ)

パターンA (打ち始めの基本的なバラケ)

「特S」400cc + 水200cc + 「GTS」500cc



How to make

「特S」400ccと水200ccをボールに溶き、2～3分放置する(特Sに入っているスイミーの粒に水を染み込ませるため)。次に「GTS」を1カップ(200cc)ずつ加えては20回かき回し、加えてはかき回すを繰り返して仕上げる(3杯目は100cc)。

パターンB (騒ぎがきつい、あるいは柔らかくしたいが持たないとき。なじんだらバラけ切ってしまうかしまわないかくらいのバラケが良い時)

「ダンゴの底釣り夏」160cc + 「特S」200cc + 水200cc + 「GTS」200cc + 「ダッシュ」200cc



How to make

「ダンゴの底釣り夏」160ccと「特S」200ccに水200ccを加え、20回かき回し3分放置。そこへ「GTS」を200cc加えて20回かき回す。さらに「ダッシュ」200ccを加え、20回かき回す。



パターンA ではエサが持たないが、パターンB ではウキが動かず沈没してしまう時は、パターンA のエサにパターンB を一握りずつ取り合体していくとベストなバラケになる。

バラケ作り(感嘆・ウドン)

「ダンゴの底釣り夏」200cc + 水300cc +
「新B」400cc + 「底バラ」400cc



200cc

+



300cc

+



400cc

+



How to make

「ダンゴの底釣り夏」200ccに水300cc
を入れ、ドロドロにする。そこへ「新
B」400ccを入れて20回くらいかきま
わす。最後に「底バラ」400ccを入れ
て20回くらいかきまわす。



400cc



実釣シミュレート

打ち始め

感嘆・ウドン 左記のバラケならなじみはでるので、ヘラブナを寄せることに専念し、アタリが出るタイミングを計る。

ヒゲトロ なじまない時は、5回ずつボールに擦りつけるように練る。逆にウキが上がってこない時は、手水をつけ柔らかくする。

ヘラが寄る

感嘆・ウドン 手水でどのタイミングでバラケを抜くのが最も当たる回数が多いかを判断していく。

ヒゲトロ なじまなくなったら、手揉みして丁寧につける。または、少し大きく付けてみる。当たらなかつたり、カラツンが続く場合は、手水をつけて柔らかくしてみる。

寄りが減ったら
エサにネバリが出て開きが悪くなり、寄りが減ったと
考えられるので、良かったエサに作り変える。

バラケに反応し、クワセを食わない。
この場合は以下のことが考えられる。

1. バラケのバラケ過ぎ。

ヘラブナがバラけるエサに強く反応する場合、さら
にバラケ性を促進させてしまうと、バラけた粒子に
さらに興味を示し、クワセに目が行かなくなる。

対応 バラケを硬めにしてみる。それでも変わらない
場合は、5回ずつボールに擦りつけるように練る。

2. バラケのバラケ性が足りない。

バラケのバラケ性、開きが足らず、バラケの芯に当
ってしまうことが考えられる。

対応 手水をつけ柔らかくして、アタリが出る前に
バラケが抜けてしまうようにする。

3. バラケが軽すぎる。(ヒゲトロ)

バラケが軽いので食べやすく、魚がバラケに向いて
しまうことが考えられる。

対応 パターンBのバラケを打ってみる。

感嘆・ウドンのセット釣りでバラケを抜いて当たっ
ていたが当たらなくなった

ウキをドゥプリ入れて様子を見る。それでも動かない
時は、下バリを3～5cm伸ばしてみる。

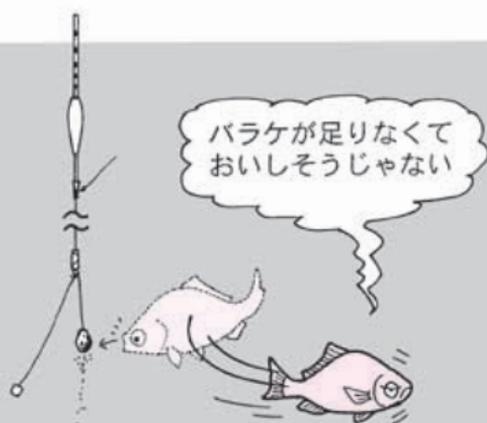
理想的なアタリとは

弱いサワリを出しながら深ナジミさせる。クワセがヒ
ゲトロなら、そこからモヤッモヤッと1目盛以内のサ
ワリを出しながら、ズバッと消し込む。感嘆・ウドン
なら上と同様か、サワリの後バラケが抜け、クワセだ
けのナジミで、小さいサワリからカチッとアタる。

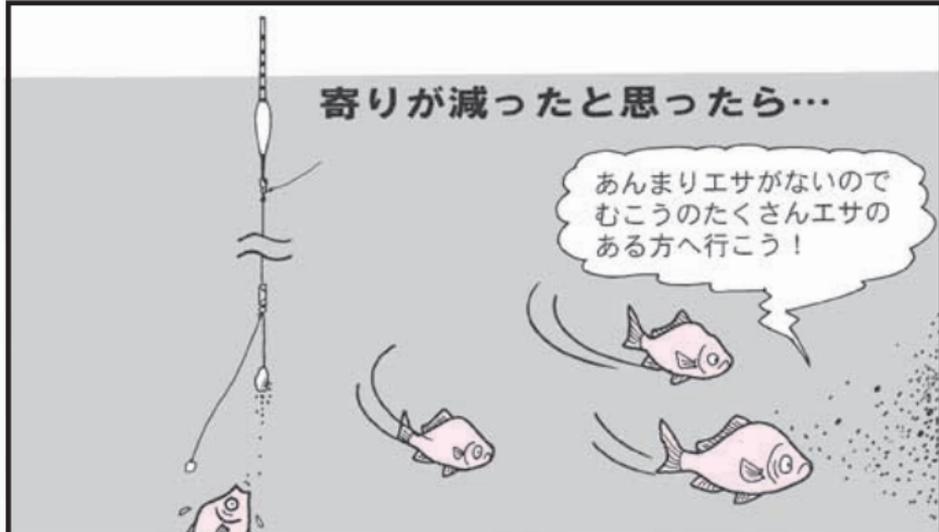
打ち始め
なじまないのは…



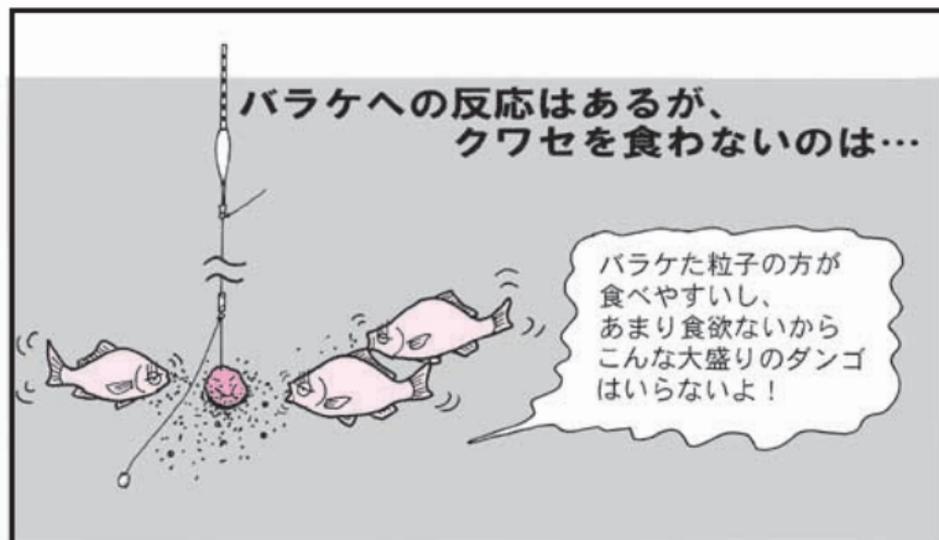
魚が寄ってきたのに
当たらないのは…



寄りが減ったと思ったら…



バラケへの反応はあるが、
クワセを食わないのは…



最新爆釣テク

効果絶大「ペレットバラケ」

ペレットバラケが効果を上げるのは、夏場「ペレ宙（ペレットと麩エサをブレンドした両だんごの釣り方）」で良く釣れる池が特によいが、比重もあり、集魚効果もあるのでペレ宙で釣れない池でも、バラケとしての集魚効果、タナ作り効果を利用して面白い。

ペレットの素材は、カタボソからペトコンまで手直しの効く、バラケ性の優れたペレットを使用する。始めから粘るペレットではカタボソ仕上げが難しく、柔らかめのバラケしか作れない。また、バラケ性の良いペレットならタナの直前でバラケ切ってしまうようなバラケも作りやすい。これらのことから、素材は「宙ペレ」がベスト。ただ、クワセが感嘆やウドンのときはネバタッチが良いことがあるので、その場合には、ネバリがある「新ペレ」にすると有効だろう。これを、手水でさらに柔らかくしていくと好釣果を得られる傾向があることも、覚えておいて欲しい。

ペレットバラケを作る時は、あまりペレットの量を多くしないこと。ペレット1に対して、水4程度。麩の量は、8～12くらいが基本。麩はペレ宙の時は、基本的にさなぎ粉の入っていないものが良いとされるが、セット釣りのときはさなぎ粉の入っているものを使っても問題はない。また、タッチ的には、やや柔らかめが良い場合が多いことを頭の片隅に置いておくと大きな失敗は少ない。

「宙ペレ」(「新ペレ」) 50cc + 水200cc

「ペレカルZ」400cc + 「軽麩」400cc



How to make

「宙ペレ(新ペレ)」50ccに水200ccを入れ10分放置した後、「ペレカルZ」400cc、「軽麩」400ccを入れ40回くらいかき回す。ペレットの効果を十分発揮するペトっとしたタッチが出来る。ボソツ気を出したい時は、ペレカルZをもじりに換えてみよう。